

空間構成の方針（案）

目 次

1. 空間構成計画

2. 風致保全計画

3. 施設計画

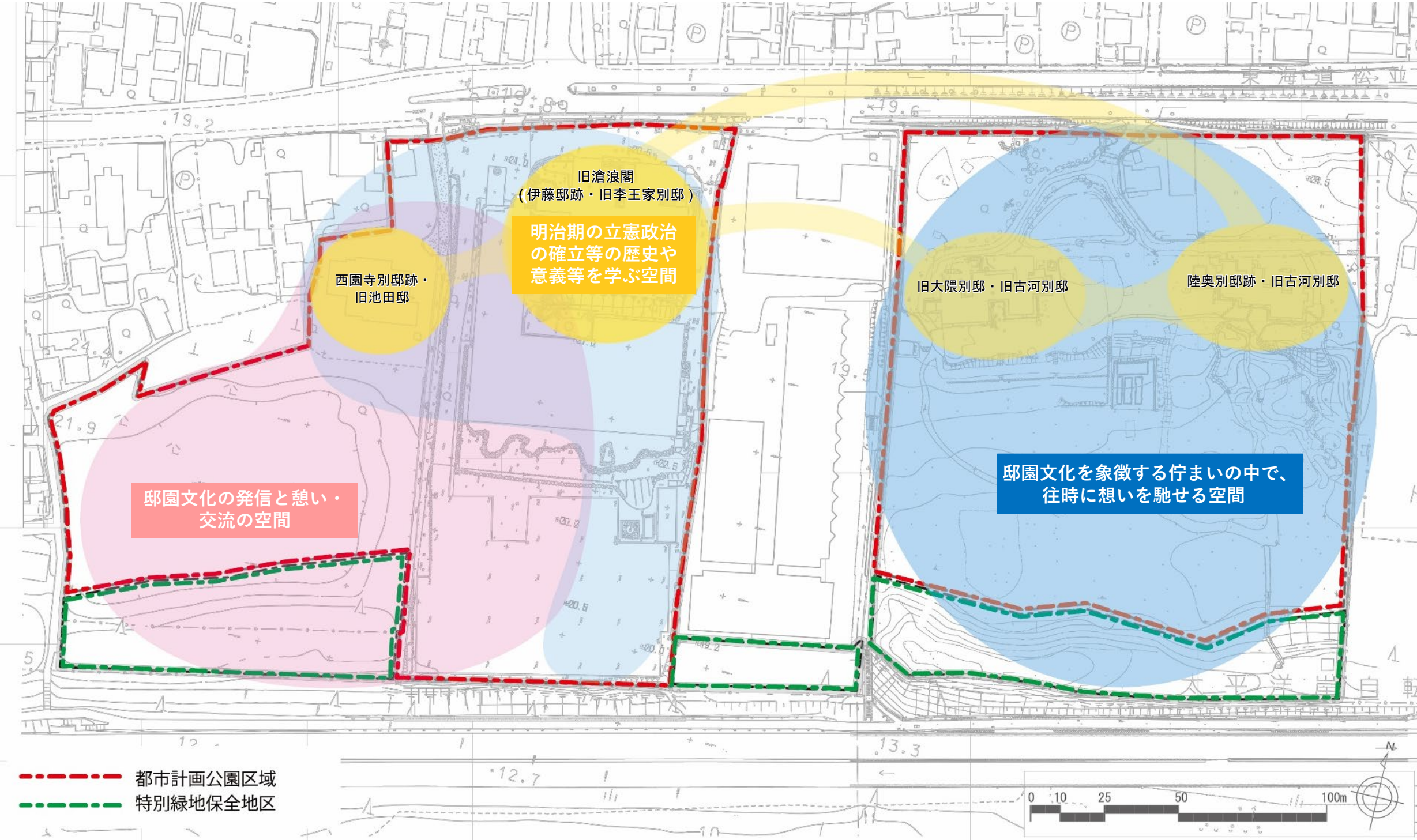
4. 動線計画

5. 植栽計画

6. 明治記念大磯邸園 基本計画図

1. 空間構成計画

各邸宅・庭園の現状や立地状況等を踏まえ、主に実現する空間として大きく3つにゾーンを設定し、基本方針を実現する。



空間構成計画図

明治期の立憲政治の確立等の歴史や意義等を学ぶ空間

明治期の立憲政治の確立等の歴史や意義等を学ぶ場として、旧滄浪閣を中心に、各邸宅が連携して歴史資料の展示、学習・交流の場等を確保します。旧滄浪閣の区域には、本邸園のエントランス及びガイダンス機能を有する空間を配置し、本邸園を回遊しながら学ぶことができる空間構成とします。



エントランスとガイダンス空間イメージ



旧滄浪閣の庭園のイメージ

■旧滄浪閣の特徴

- ・立憲政治の確立に最も貢献した人物の一人といわれる伊藤博文が本邸としていた場である。
- ・本邸園の中央部に位置し、本邸園で最も大きな邸宅面積を有している。
- ・現存する邸宅は、伊藤博文の没後に譲渡された李王家が、関東大震災後（大正12年（1923））後に建て直したもの。商業目的等のために大きく増改築されているため、旧滄浪閣の修復等とあわせて、公園利用のための柔軟な空間確保が可能。



旧滄浪閣（伊藤邸時代）



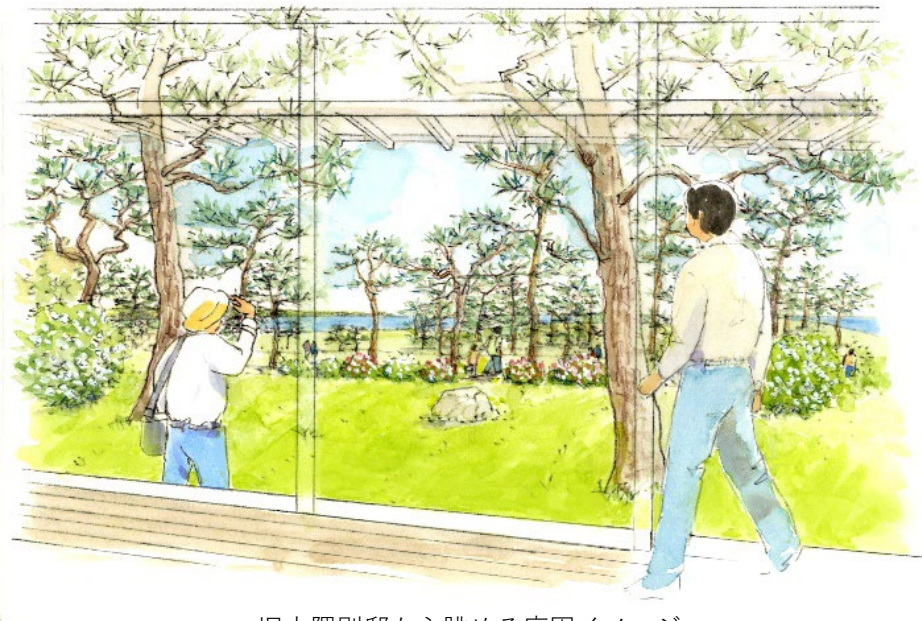
旧滄浪閣（1992頃）



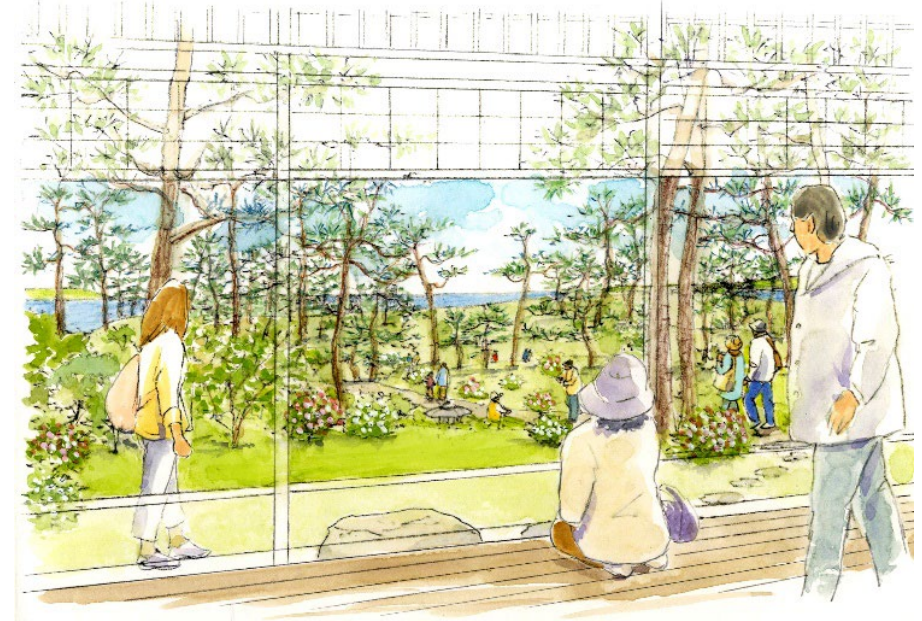
増改築されている様子（2018.9撮影）

邸園文化を象徴する佇まいの中で、往時に想いを馳せる空間

旧大隈別邸や陸奥別邸跡を中心に、積層する歴史を踏まえつつ、**各邸宅や庭園の保存・修復等を行うとともに、松林の保全・再生や海への眺望を確保**することにより、湘南の邸園文化を象徴する佇まいの中で、邸宅から庭園を眺めたり、海を感じながら散策したりするなど、**往時に想いを馳せ、先人の息づかいを感じられるような空間を配置**します。



旧大隈別邸から眺める庭園イメージ



陸奥別邸跡から眺める庭園イメージ

■旧大隈別邸・陸奥別邸跡の特徴

- ・旧大隈別邸は、明治30年（1897）に大隈重信が所有し、古河家に譲渡されて以降、屋根改修や一部増改築がされているものの、改変が少ないことから、**明治期の姿を今によく残している**。
- ・陸奥別邸跡は、陸奥宗光の没後に古河家の所有となり、大正12年（1923）の関東大震災で一部倒壊したものの、古河家の別邸として原型の一部を残すように再建されたと言われ、**今日まで良好な状態で保存されている**。
- ・旧大隈別邸には芝庭があり、陸奥別邸跡の前には日本庭園が広がるなど、邸宅に加え**庭園も比較的良好な状態で残されており、庭園が邸宅を引き立て、落ち着きのある雰囲気**を醸し出している。



旧大隈別邸 神代の間外観(2018.9)



陸奥別邸跡の庭園及び邸宅外観(2018.9)

邸園文化の発信と憩い・交流の空間

西園寺別邸跡を中心に、散策や休憩をするための園路や休憩施設を設けることで、来園者や地域住民の憩いの場を確保するとともに、交流イベント等が開催できる広場等を設けることで、地域間交流の活性化や新たな文化の発信につながるような空間を配置します。



憩い・交流の空間イメージ

■西園寺別邸跡の特徴

- ・西園寺別邸跡・旧池田成彬邸は、池田成彬が昭和7年（1932）に別邸として建てたものです。明治期の建物ではないものの、西洋文化が取り入れられた大正・昭和初期の洋館の姿を色濃く残している。また、内部の調度品や照明器具も当時のまま残されている。
- ・テラスを通じて庭園と邸宅を行き来することができることから、屋内外の一体的な利用が可能であり、滞留しやすい設えとなっている。
- ・現在、邸宅地の樹林は過密化しており、保全・活用のための庭園の修復と緑地の整備が必要。



西園寺別邸跡 外観(2017.9)



西園寺別邸跡 内観(2017.9)

2. 風致保全計画

- ・本邸園内の**近景**である**邸宅**や**庭園**の修復、**中景**である**松林**の**保全**を行う。旧滄浪閣の区域等の**歴史的景観**が失われた空間については、**庭園**や**松林**の**再生**を行う。
- ・各邸宅の特徴を踏まえて**視点場**と**景観軸**を設定し、こゆるぎ浜から**相模湾**への眺望、**富士山**への眺望を確保する。
- ・地形や樹林の特徴を活かした**多様な眺望**が**楽しめる動線**を設ける。
- ・本邸園のエントランス等の東海道（国道1号）に面する空間においては、松並木等の歴史的景観との調和を図る。

■重視する構成要素

各邸宅から眺める
庭園



万葉集にも詠まれた
白砂青松の**こゆるぎの浜**



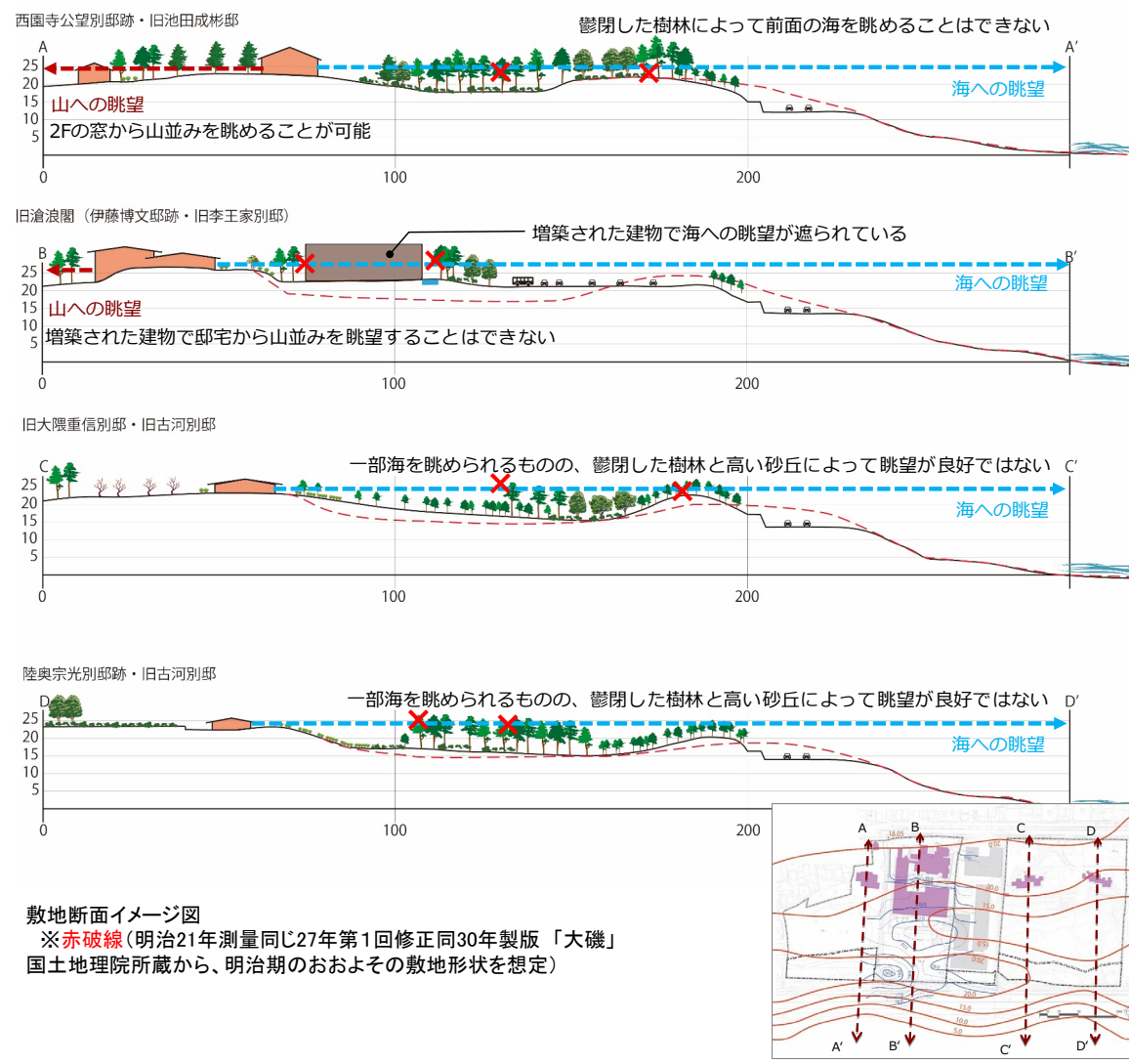
東海道の整備とともに、
街道沿いに植えられた
**松林等の歴史・文化的
景観**



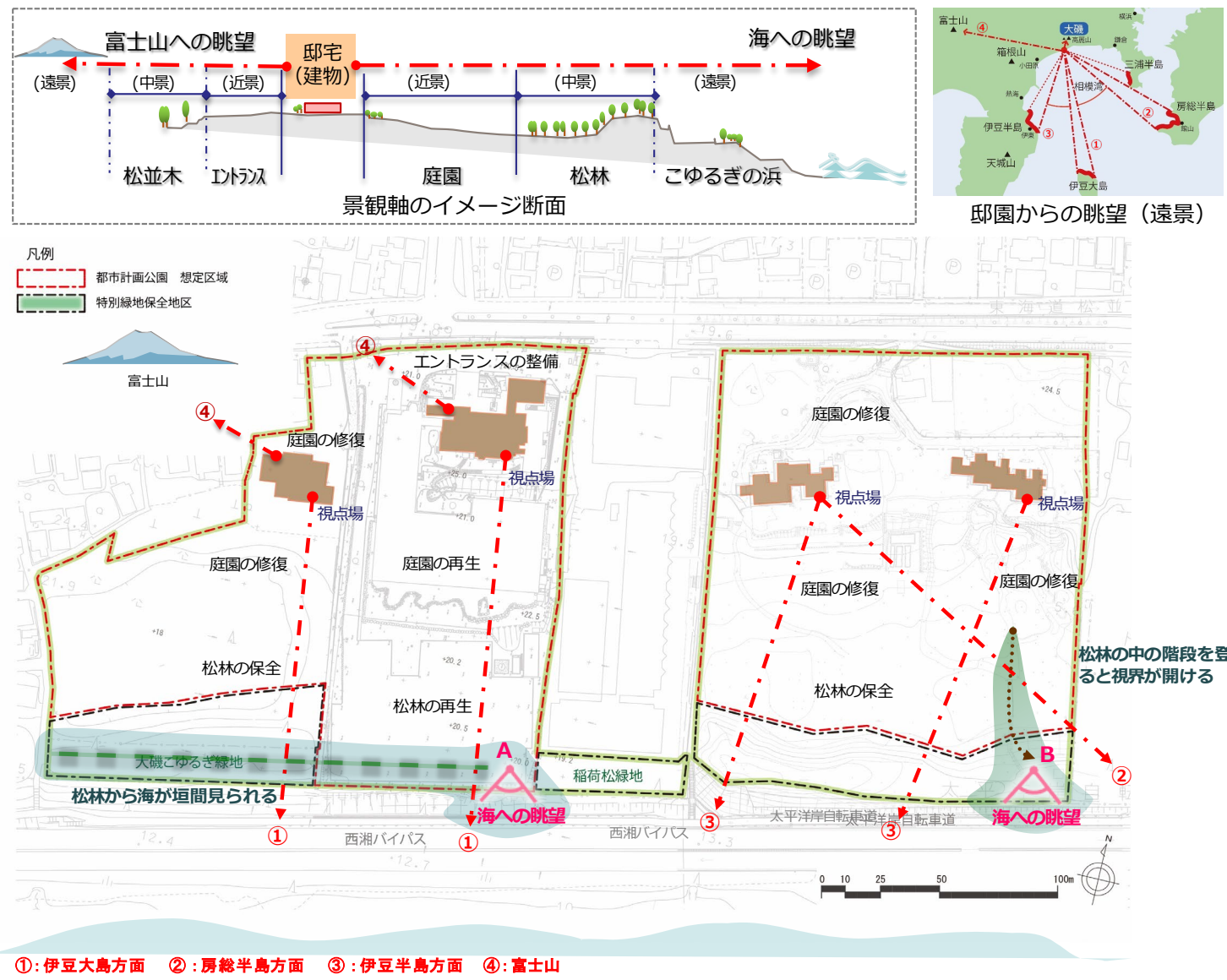
伊藤博文が歌に詠むほど
愛した**富士山の眺望**



■邸園の地形と緑地（明治期と現況比較）



■景観軸



海への眺望 A 海を垣間見た先に現れる海への眺望

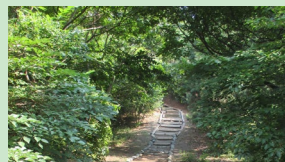


松林から見え隠れする海

海への眺望 B 松林の中にある階段を登ると現れる海への眺望



視界が開け、海を眺望



3. 施設計画

空間構成計画及び風致保全計画を踏まえ、邸宅及び庭園の保存・活用の考え方を整理し、本邸園の施設を検討した。

■邸宅及び庭園の保存・活用の考え方

- ・積層する歴史を踏まえ、現存する邸宅及び庭園が有している歴史的・文化的価値を保存し、後世に継承するための整備を行う。
- ・各邸宅及び庭園の保存・修復等の目安とする時代を設定する。
歴史資料等を踏まえ、復元の可能性も含む調査・検討を行った上で、邸宅及び庭園の修復を行う。
その際、できる限り現在用いられている部材等を活用するよう努める。
- ・各邸宅及び庭園の活用にあたっては、その歴史的・文化的価値を尊重しつつ、本邸園の基本理念及び基本方針の実現に必要な機能の確保、来場者の安全確保等に必要な整備を行う。
- ・邸宅以外の用途で増改築された既存の施設等は、風致の保全及び公園利用の観点から、必要に応じて改修・解体等を行う。

■保存・修復等の目安とする時代

旧滄浪閣(伊藤博文邸跡・旧李王家別邸)	
邸宅	旧李王家別邸（昭和初期）を保存・修復
庭園	資料をもとに伊藤博文邸（明治中期）の庭園を一部再生
旧大隈重信別邸・旧古河別邸、陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸	
邸宅	旧大隈重信別邸（明治中期）、旧古河別邸（大正後期）を保存・修復
庭園	旧古河別邸の庭園（明治中期以降と想定されるが、作庭年代は不明）を保存・修復
西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸	
邸宅	旧池田成彬邸（昭和初期）を保存・修復
庭園	資料をもとに旧池田成彬邸（昭和初期）の庭園を修復

3. 施設計画

西園寺別邸跡・旧池田邸

飲食・物販等、来園者の憩い・交流空間として活用



西園寺別邸跡（1991頃） 憩い・交流空間のイメージ（旧木下邸HP）

凡例

- 都市計画公園 区域
- 特別緑地保全地区
- 邸宅（歴史的建造物）
- 緑地
- 邸宅・庭園
- エントランス・駐車場
- ◎ ガイダンス施設



交流広場のイメージ（服部緑地・大阪府HP）

旧滄浪閣（伊藤邸跡・旧李王家別邸）

明治期の立憲政治の確立等に関する歴史資料の展示や学習スペース等、展示・学習空間等として活用

既存施設の一部撤去等を行い、既往資料等をもとに伊藤梅子婦人が愛した庭園（花庭）を再生



旧滄浪閣（1992頃）



花庭のイメージ（旧古河庭園・東京都公園協会HP）

旧大隈別邸・旧古河別邸 陸奥別邸跡・旧古河別邸

・建物及び庭園を保存・修復。
各邸宅の人物にゆかりのある資料を展示し、内部を公開。

・現存する庭園の修復
松林の保全を行い、
往時の佇まいを再生。

※旧大隈別邸は“眺める庭園”
陸奥別邸跡は“散策する庭園”



旧大隈別邸（神代の間外観）



陸奥別邸跡（和室）



眺める庭園のイメージ（駒場公園 旧前田家本邸）



陸奥別邸跡（散策する庭園）

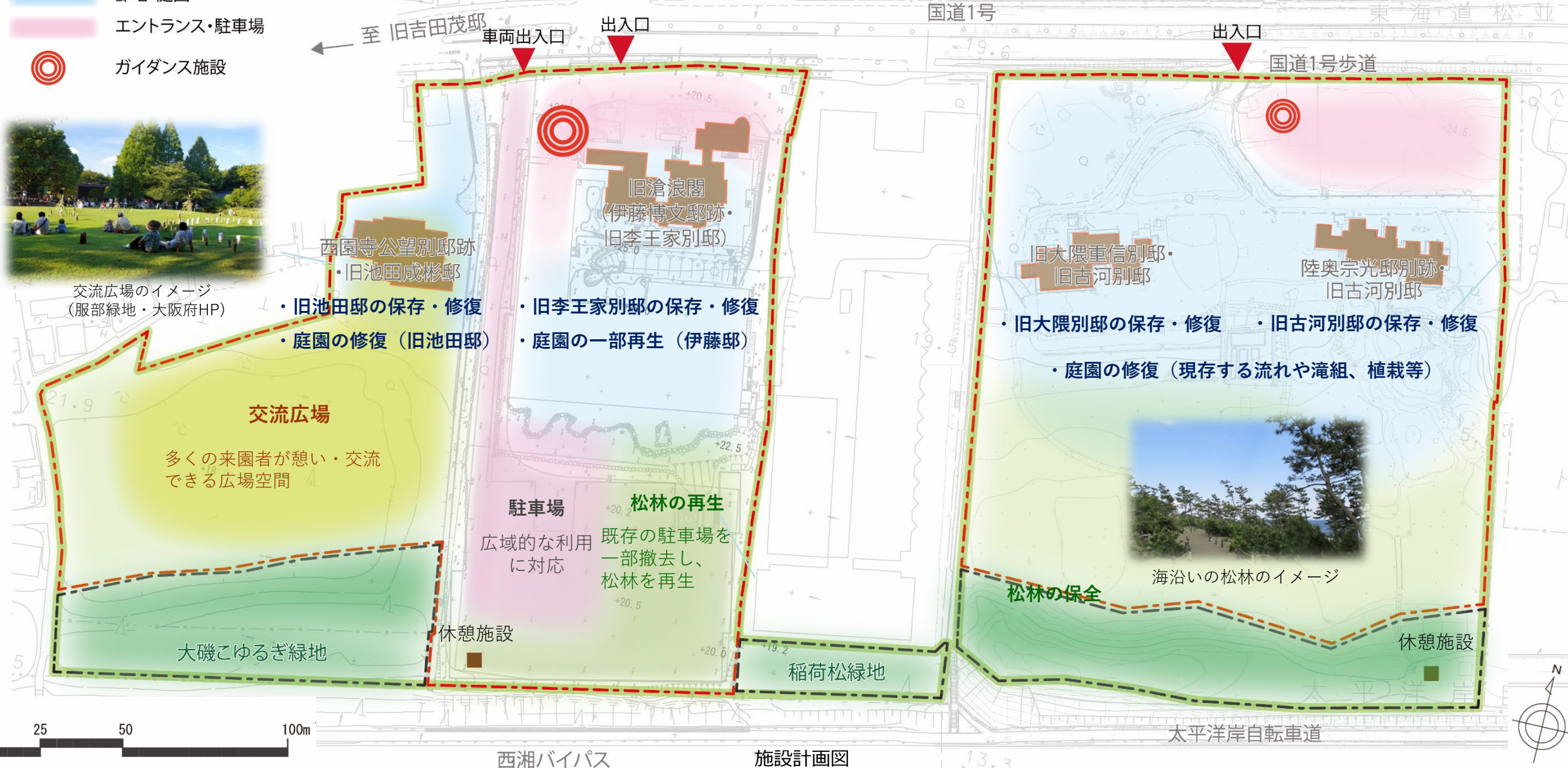
●邸園のメインエントランス

来園者の滞留等が可能な空間、本邸園のガイダンス施設等を整備

※旧東海道の松並木等の歴史的景観との調和を図り、邸園文化を象徴する玄関口に相応しい修景を実施

●邸園のサブエントランス

本邸園の補助玄関口として、ガイダンス施設や休憩施設、身体障害者用の駐車場等を整備



4. 動線計画

邸園内の動線計画の検討に際し、来園者の回遊イメージを下記のとおり検討した。



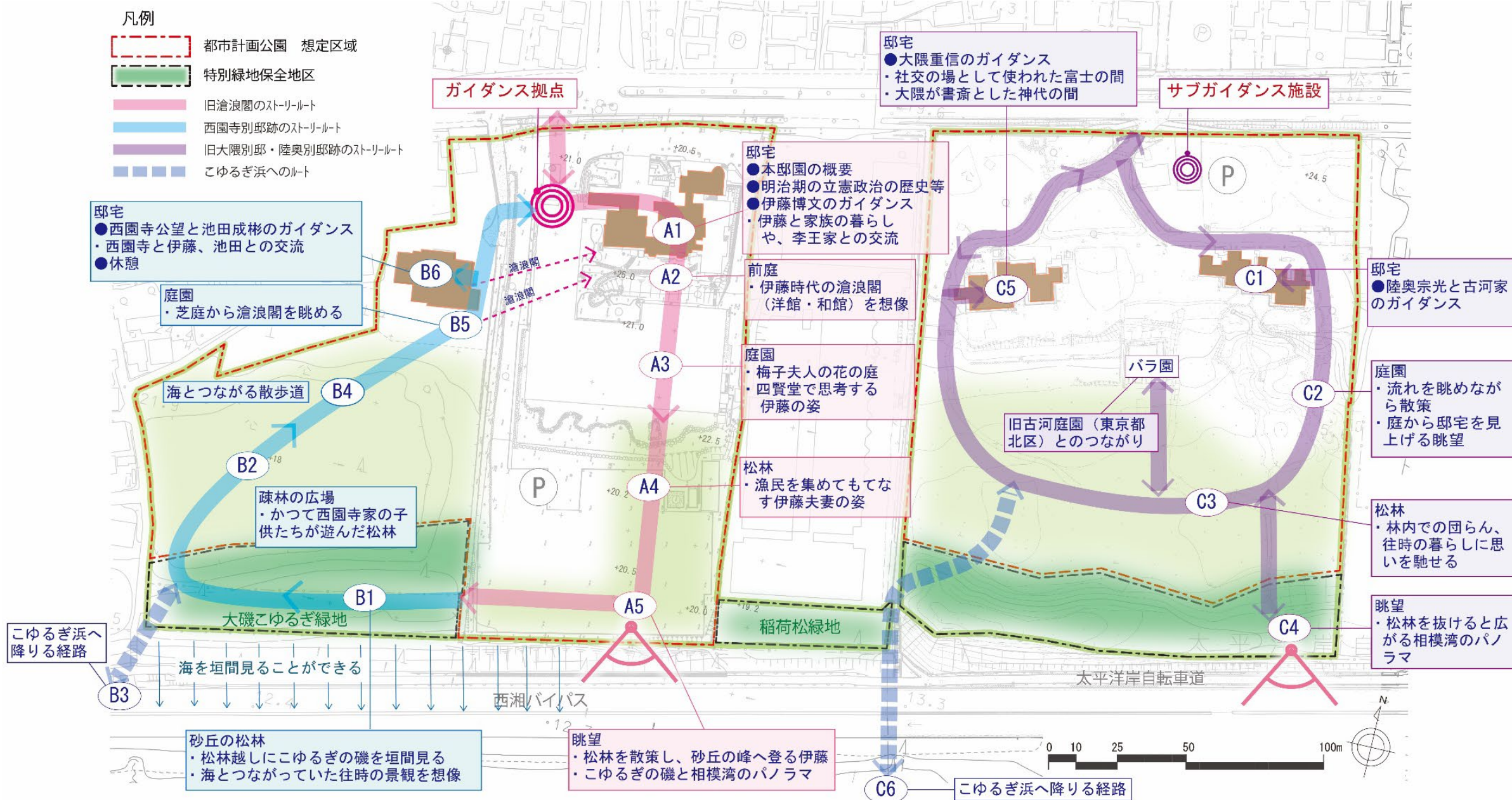
旧東海道の松並木



道監統



大磯駅



邸園回遊イメージ

4. 動線計画

※大規模な地形の改変を避ける観点から、園内動線はできるだけ既存の道形を利用



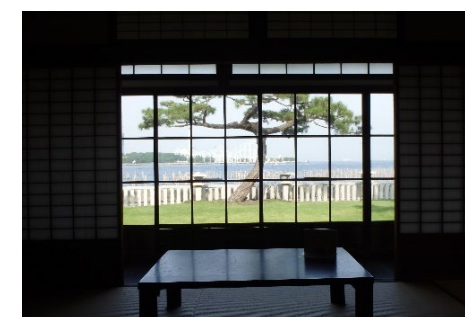
5. 植栽計画

以下の取組により、本邸園の景観形成を図る上で重要な海への眺望を確保するとともに、往時の佇まいを感じさせる庭園の修復・再生を行う。

- ① 海への眺望を確保 ● 過密化した松やハリエンジュ等の外来種、クスノキ、スダジイ等の広葉樹を伐採・剪定し、邸宅から海への眺望を確保。その際、邸宅内部から邸園・海への見え方にも配慮し、邸宅内外から海が眺望できるようにする。
- ② 松林の保全・再生 ● 松の間伐や松枯れ木の処理等を行い、松林の保全を図る。
● 旧滄浪閣では、駐車場として利用されている箇所を一部撤去し、新たに松林を再生することで海側の“緑の連続性”を創出。その際、邸園内のマツの実生木を活用するとともに、散策したくなるような明るい松林を目指す。
- ③ 庭園の修復・再生 ● 庭園側から見た邸宅の外観との調和を図るとともに、花木や草花によって庭園を彩り、来園者が先人の暮らしに想いを馳せながら、庭園の四季折々の表情の変化を楽しめるよう取り組む。
- ④ 外周植栽 ● 周辺施設の土地利用に配慮し、遮蔽植栽を実施。



植栽計画図



邸宅からの眺望のイメージ
(横浜市旧伊藤博文金沢別邸)



明るい松林のイメージ
(宮崎県立阿波岐原森林公園)



花木や草花による彩りある庭園のイメージ
(横浜市港の見える丘公園)

6. 明治記念大磯邸園 基本計画図

